

## DF実務者資格維持の継続教育（CPE）ポイントについて

DF実務者資格認定試験に合格し、DF実務者資格の認定を取得した方は、取得した日から3年間の有効期間があります。有効期間内に必要な継続教育ポイントを取得し、ポイントを計算したデータをIDF事務局に提出した場合は、有効期間経過後さらに3年間、その効力が継続されます。

### 1 必要条件

DF実務者資格の認定を受けてから有効期間経過後にもその効力の継続を希望する場合は、DF実務者資格の認定を取得した日から3年間に合計50ポイント以上の継続教育ポイントを取得する必要があります。ただし、3年間で50ポイント以上取得した場合であっても、さらに3年後の継続教育ポイントとして繰り越すことはできません。

### 2 継続教育ポイントの対象

#### (1) IDF主催のイベントや各分科会

IDFが主催するIDFコミュニティへの参加は、講演又は研究会と記載されたもののみが対象となり、1時間で1ポイント、合計参加時間が1時間以上の場合は、時間に換算して小数点1桁は切り上げになります（例えば、合計参加時間が210分の場合は3.5時間=3.5ポイントであり、小数点1桁を切り上げて4ポイントになります）。ただし、合計参加時間が1時間に満たない場合は0ポイントになります。

IDFが主催するIDF講習会及び各分科会への参加は、1コース又は1つの分科会への参加ごとに1時間で1ポイント、1時間以上の場合は、時間に換算して小数点1桁は切り上げになります。ただし、参加時間が1時間に満たない場合は0ポイントになります。

なお、継続教育ポイントの対象となる分科会は、以下になります。

- ・ 技術分科会
- ・ 法務・監査分科会
- ・ 医療分科会
- ・ DF人材育成分科会
- ・ 法曹実務者分科会

今後、分科会を新設した場合も継続教育ポイントの対象になります。

#### (2) 他のイベント

他のシンポジウムやワークショップ等のイベントへの参加は1時間で0.5ポイント、合計参加時間が1時間以上の場合は10分単位で計算し、小数点2桁は切り上げになります（例えば、合計参加時間が210分の場合は3.5時間=1.75ポイントであり、小数点2桁を切り上げて1.8ポイントになります）。

継続教育ポイントの対象となるイベントは、決まったものから随時公表いたします。

### 3 受講証明書の発行

受講証明書は、DF実務資格保有者の申請に基づき、前項（1）のうち分科会を除いて、IDF事務局が発行いたします。前項（1）の分科会及び前項（2）の場合の受講証明書の発行は、対象となるイベントと併せて公表いたします。

### 4 継続教育ポイントの申請方法

各自で継続教育ポイントを計算したデータをIDF事務局に提出していただきます。提出するデータの様式は、今後、公表いたします。

なお、継続教育ポイントの受講証明書又はこれに代わる資料を提出していただく場合がありますので、各自で受講証明書又はこれに代わる資料を保管しておいてください。

## 5 留意事項

DF実務者資格保有者が、取得から3年を経過するまでに継続教育ポイントを計算したデータをIDF事務局に提出しなかった場合は、DF実務者資格の認定が自動的に失効します。再度DF実務者資格の認定を取得する場合は、DF実務者資格試験を受験して合格する必要があります。

なお、DF基礎資格保有者につきましては、継続教育ポイントを取得する必要はありません。

変更履歴

2022年12月1日制定